

FINE BLEND

Café Magazine

Talk
01

開発当時の担当者対談
「ファイン・ブレンド」は
こうして生まれた

Talk
02

営業現場で実感！
「ファイン・ブレンド」の
軌跡とこれから



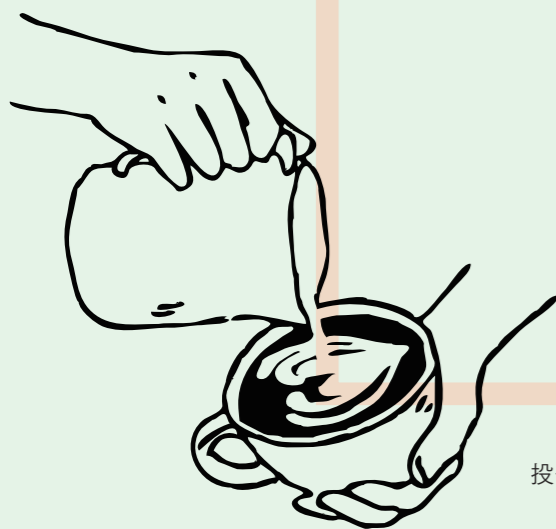
10周年を、
読む。



「ファイン・ブレンド
(毎月分配型) / (資産成長型)」は
2023年3月25日に
運用開始10周年を迎えます。



「ファイン・ブレンド」は こうして生まれた



投信インフォメーション部
グループマネージャー

近野 藍

2003年日興アセット入社。
今年で入社20周年。



商品開発部長
有賀 潤一郎

1993年日興アセット入社。
今年で入社30周年。

2013年に生まれた「ファイン・ブレンド」。

商品開発と資料作成の担当者二人が、

ファンドが生まれた経緯や、当時の思い出を語ります。

社を挙げての一大プロジェクト やり直しの連続でした

近野 「ファイン・ブレンド」が今年で10周年。感慨深いですね。

有賀 本当だね。取り組みだしたのはちょうどNISAが始まる前で、当社も含め色々な会社がバランスファンドを開発していた時期だった。

近野 資産運用のコアとして使える「じっくり育てるファンドをどうやって作っていくか」についてディスカッションを重ねましたね。あれほど全社一丸となって動いたのは、「ファイン・ブレンド」がはじめてだったと思います。

有賀 懐かしいね。斬新な発想が大事だ！ということで、普段商品開発では絡まない部署も巻き込んだりして。

近野 とにかくストーリーを大事にしていたね。それがうまくいかないから練り直しになったり。かなり時間をかけて、じっくりコンセプトを育て上げて誕生した記憶がありますね。

有賀 だから世に出るまでに1年かかったんだけど、これは当時としては長かった。

近野 あの時はたくさんあるバランスファンドの中で違いを感じてもらえるにはどうしたらいいのかをまとめるのが本当に大変でしたね。

有賀 特にこのファンドの肝である、「リスク・パリティ」の考え方を資料で伝えることに神経を注いでもらったね。「リス

ク・パリティ」は各資産のリスクに着目し、ポートフォリオを構築した時に各資産のリスクの寄与度が均等になるよう配分するものだけど、当時は新しかった。

近野 本当に難しかったです！その発想を資料で表現したことがそれまでなかったですし、ほかの多くのバランスファンドの資産配分方法は固定配分が一般的な中で、「リスク」というネガティブワードがキーになるのをどうしたものかと。「リスクは怖いもの」という印象があるから、あまり前に出してはいけないのではないかと、でもそれを語らなければ「リスク・パリティ」の説明はできないよね、と。それはもう何度も議論を重ねて。

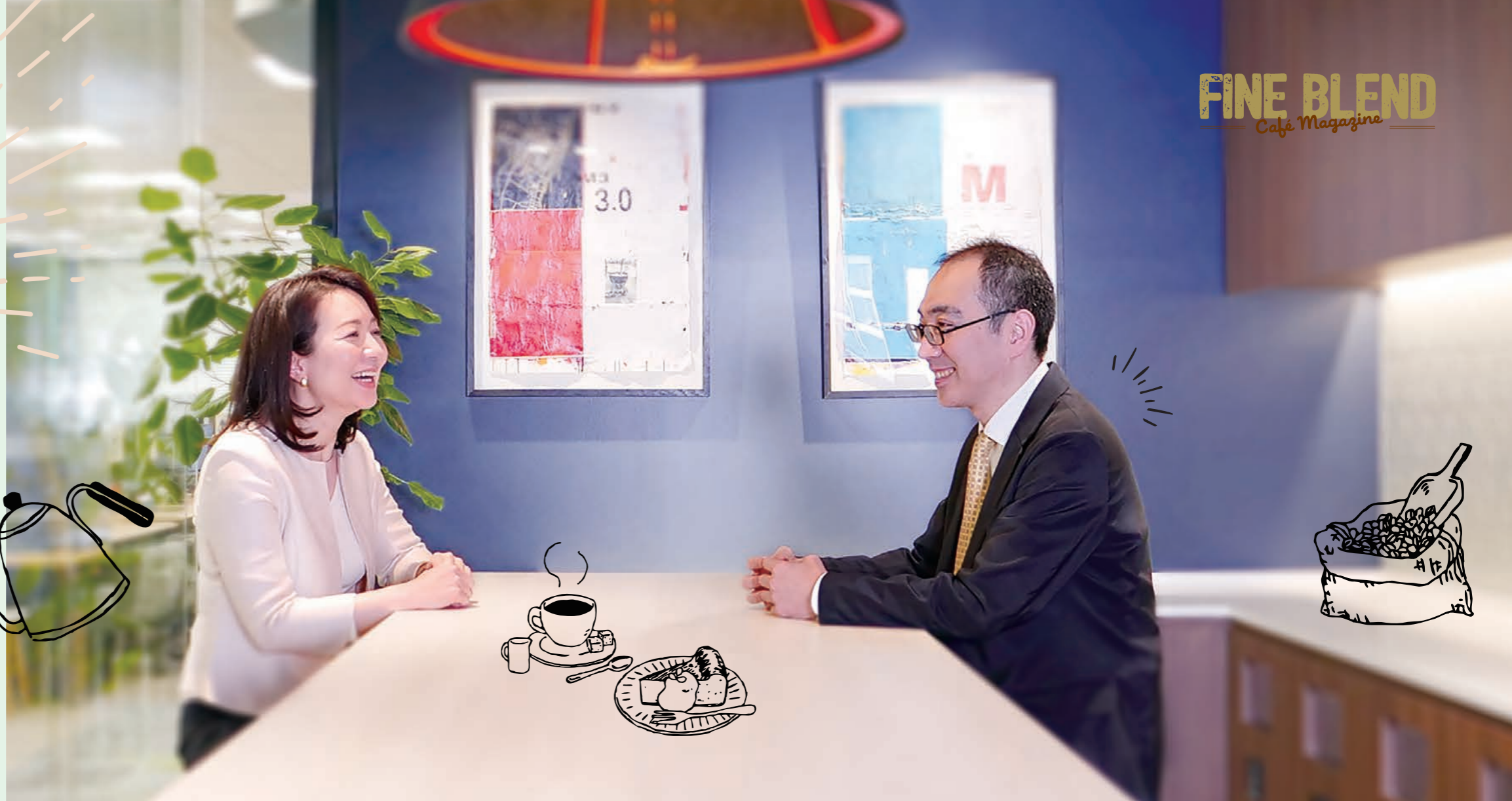
有賀 結果としてファンド名を冠に「ファイン・ブレンド戦略」として、「各資産の基準価額に対して与える影響度を概ね均

等にする」としたことで、「リスク」という言葉を使わずに、でもこの戦略を端的に示した分かりやすい表現になったと感じましたね。

近野 本当ですね。では有賀さんの大変だったことも聞いていいですか？

有賀 そうだね、元々「リスク・パリティ」型の商品を作ろうとなったとき、大事なのはどの資産を選ぶか。値動きが同じ方向のものを組み合わせてもほぼ意味がないわけで。経済合理性の話やおもしろく見える・見えないの話など色々ある中で複合的な選択や発明をしていくのが大変だったね。「つまらない！」なんて言われてしまったり(笑)。資産に「金」を入れたのも途中からだし、最初のアイデアの段階からいろいろ変

10年経っても「ありそうでない」。
ユニークさが続くファンド



わっていった。一旦休んでやり直したこともあったよね。

近野 一回設定が延期になったときにいい意味でホッとしました。中途半端な形で世に出ていくということがなく、ちゃんとできると思ったことをすごく覚えています。

有賀 とにかくダメ出しが多かったからね(笑)。でも「いいとは思わない」という意見が一番貴重。そういう意味で、たくさんやり直した結果いい作品ができたな、と自負しているよ。

近野 はい。私も皆でアイデアを出して、皆の知恵と応援があって作ったものを世に出した、という思いで感慨深かったです。喉元過ぎれば、なんですけれどね(笑)。

実績で増す存在感
10年経った今

近野 でも、この10年で「リスク」に対する世の中の受け入れ方がだいぶ変わったと実感していますね。今は「リスク・パリティ」をある程度打ち出すというか、5年くらい前から「リスクをマネジメントするファンド」とした方がより分かりやすいのではという話もでてきて、実際資料でもその表現を使うように

なってきました。資産運用がより広がってきている、分かっている人が増えてきているんだなと感じます。

有賀 嬉しい話だね。それに加えて、この10年の「ファイン・ブレンド」の実績が、よりこの戦略に説得力を持たせてくれたなど。組み入れている日本国債、高金利海外債券、グローバル高配当株式、グローバルREIT、金の5資産が、本当によく作用してくれた。

近野 この10年のマーケットって、すごく色々なことがありましたよね。マーケットがすごく荒れたときも、上がったときも、そのときどきで5資産が交替でどれかが勝っていて、というお手本のように、このファンドが目指すところを見事に体現できていたと感じます。ここ5年くらいは、その前の5年を見て「ファイン・ブレンドいいですよ」という販売担当者の方の声をいただくこともあって。じわじわ認知度が上がってきて、ようやくここまで来たなど。運用実績とともに存在感が高まってきている印象です。

有賀 そうだね、「ファイン・ブレンド」は派手さはないけれど、そういった良さをずっと実感し続けていたから、10年もあるという間には感じなかった。

近野 でも考えてみると、今でも似たファンドってありそうでないですよ。

有賀 「ファイン・ブレンド」は仕上りの逆算から商品を作っているから、近いものはあっても似たものにはならないのかな。

近野 それで今でも古びていない印象になるのかもしれないね。

「しないこと」の開発から生まれた
ロングセラーファンド

近野 そもそも「リスク・パリティ」型の商品を作ろうとしたきっかけは？

有賀 実はね、この考え方はずっと持っていたんだ。「リスク・パリティ」という言葉自体は、2005年に論文で使われてから普及したものだけど、このリスクに着目して資産を配分するという方法は、当社のファンドでも既に取り入れていた。だから新しく取り組んだのではなく、「同じ考え方を、その時々で違うやり方でやっている」という感じかな。

近野 なるほど。

有賀 この商品を作る上で、「誰かが株が上がる」というから、何かのモデルが株が上がる計算したから、株に投資する・株の割合を増やすみたいな相場の上げ下げにベットすることをひたすら「してこなかった」。つまり「ファイン・ブレンド」では「しないこと」を開発してきたんだよね。

近野 「しないこと」の開発ですか。

有賀 そう。賭けを排除してきた。性格が慎重派なんだよね。「ファイン・ブレンド」は、そういった開発者の性格が表れているファンド。

近野 有賀さんの性格も出ているんですか！

有賀 うん。ファンドは作り手の人となりめちゃうか出ると思う(笑)。

近野 へえ、それはおもしろいですね。当初皆で頭を抱えた「リスク・パリティ」ですけど、こうして今回振り返ってみて改めて考えてみると「リスクと安心して向き合うための考え方」と言えるんじゃないかなという気がしました。

有賀 あ、いいねそれ。新しいキャッチコピーはそれで！

近野 そんな急な(笑)。

現場で実感!

「ファイン・ブレンド」の軌跡とこれから

「ファイン・ブレンド」の営業活動に日々奔走している3人。

お客様に近いところにいる彼らだからこそ感じるファンドの魅力やアツい思いに花を咲かせました。



FINE BLEND

Café Magazine

資産運用推進部
シニアアドバイザー
山崎俊文

資産運用推進部
シニアアドバイザー
佐々木裕子

資産運用サポート部
シニアアドバイザー
笹沼信夫

佐々木 今日は「ファイン・ブレンド」についてアレコレ語るといことで。まず私たちの役割ですが、笹沼さんは銀行や証券会社といった販売会社さんに商品の採用などの営業活動を行なっていて、山崎さんと私は主に研修などのサポートを行なっていますよね。

笹沼 そう。そして「ファイン・ブレンド」の採用第一号の販売会社さんも私の担当で。

山崎 覚えてますよー。笹沼さん駆け回っていた!

佐々木 しかも笹沼さんも2013年入社で、当ファンドと同じ10周年なんですよ。

笹沼 よくご存じで。入社直後から当ファンドに携わっていたので印象深いですね。NISAを意識した「大幅な下落抑制」を体現する仕組み「リスク・パリティ」をご評価いただいた採用でした。販売開始前の研修やフォローなどなかなかの力仕事でしたが、販売担当者の皆さんにまでしっかりとご理解いただけたのは嬉しかったですね。

山崎 「ファイン・ブレンド」は我々から見ても、「リスク・パリティ」の新しさや「金」が組み入れられているというめずらしさがありましたし、ましてや販売会社の皆さんにとっては最初はなかなか理解しにくい・お客様に説明しにくい、ということがありましたよね。

笹沼 だからこそ営業のやりがいというのもあるわけなのですが(笑)、確かに以前は「金が語りにくい」という理由で採用に至らないこともありました。しかし今では逆に、「金」の有効性やパフォーマンスの実績の評価による採用も相次ぎ、感慨深いものがありますね。

佐々木 そうなんです。「ファイン・ブレンド」は本当に実績が評価されているファンド。運用期間が長い分、一層その安定的な値動きが際立っているなと私も実感しています。

山崎 そうそう。やっぱり大きく下落しにくい安定感が魅力だよ。その上で、預金のままじゃ得られないリターンを期待できる。セミナーや勉強会などで、安定性の裏返しである地味な値動き、言ってみれば「面白味のなさ」を敢えて強調することで、ファンドの特性をお伝えすることがありますよ。

佐々木 「リスク・パリティ」の戦略って、安定的な運用が求められる年金運用の世界で取り入れられていますよね。その手法と同じ、ということは「資産運用のコア」を担う商品としての説得力が増すなあと思っていて。そんな「堅実」な印象も好きなんですよ。

笹沼 個人投資家向けの商品に取り入れた先見性は高いよね。マーケットを予測しない、恣意的ではないという「ファンドの仕組み」による運用の結果の妙だなと。

山崎 そこにさらに「金」の組み入れがあることが効いている。ロシアのウクライナ侵攻などの予測不能な突発的な出来事でも、「金」の下支えが効いていたことが実際に示されたこ

とに当ファンドの強さを感じましたね。

佐々木 よく、バランスファンドは「下落しないけど、上昇もしない」、「一度大きく下落したら、もう戻らない」というイメージがある方が多いように思いますが、当ファンドは実績をもってそれをいい意味で裏切ることができるなと感じます。

山崎 販売担当者の方にも、どのような局面でも大きく負けることがなかったので、「いい意味でフォローが必要ない」との声をいただくこともありますね。

笹沼 なるほど、当ファンドらしいご意見ですね。佐々木さん

が販売担当者さんとのコミュニケーションでよく聞くものは？

佐々木 そうですね、安定的な値動きの運用を続けているため「預金の次のステップとして、安心してお客様に選んでいただける商品ですね」と仰っていただけます。

笹沼 まさに、「資産運用のコア」になる商品といえるよね。

山崎 資産運用も建物の建築設計と同じように土台と柱の役割を担う商品があると考えますが、当ファンドはまさに土台部分を担う、ブレない着実な運用が特長。土台こそがより大きな資産形成を可能にする重要な部分ですからね。

佐々木 加えて資産運用に大事なことは、マーケットに居続け

ること。「ファイン・ブレンド」はマーケットの変動が高まる際にもキャッシュ退避せず5資産に投資し続けます。だからこそ「資産運用のコア」に当ファンドを据え置いて、マーケットに長く居続け、経済成長の恩恵をしっかりとご享受いただきたいですね。

笹沼 こうして10周年を迎えたけど、そうなると思えてくるのが次の10年。皆の抱負を聞いちゃおうかな。

佐々木 早くも次の10年！ そうですね、この10年は「ファイン・ブレンド」が色々なマーケット局面に対応できることを証明してきた時間だったと思います。そのようなファンドの強み

を、次の10年では一人でも多くの投資家の方々に知っていただけるよう、精力的に周知活動していきたいです！

山崎 私も、数あるバランスファンドの中でも安定感を誇る「ファイン・ブレンド」をできるだけ多くの方に知っていただけるようにしっかりアピールしていきたいですね。そういう笹沼さんは？

笹沼 同じく、実績と仕組みを広く知っていただき、ラインアップのひとつとして選ばれるようにご紹介していきたいですね。先が想定しづらいときこそ、なおさらこの仕組みが活きますからね！

FINE BLEND Café Magazine

他己紹介をお願いします。

山崎さん

笹沼 出身地・佐世保仕込みの某通販会社的なトーク力でお客様の営業活動のお役に立とうと一生懸命!(?)

佐々木 穏やかで温かな印象ですが、実は商品に対してとても強い想いやこだわりを持っている職人気質。焦ったときに平常心を取り戻させてくれるような存在です。

佐々木さん

笹沼 さわやかな笑顔のまま、押しが強い(笑)。押しに押します!(笑)

山崎 資料作成などのデザインやレイアウトセンスにいつも脱帽しています。

笹沼さん

山崎 先方の懐に入る力に天賦のものを感じています。

佐々木 バリトン調の心地よい声と語り口のソフトさ・面白さから広がる「笹沼ワールド」。私も笹沼さんの懐にがっつりと入り込む力には脱帽です!

「ファイン・ブレンド」に キャッチコピーをつけるとしたら？

笹沼 回復力の「ファイン・ブレンド」。

山崎・佐々木 シンプル!(笑)

佐々木 私は「退屈」こそ「王道」、「退屈」こそ「縁の下」の力持ち、「退屈」こそ「重要」、そんなフレーズが浮かびますね。穏やかな値動きを素直に、そして「魅力」としてお伝えしていければと。

山崎 「不測の事態に惑わされない、予測をしないバランスファンド」かな。予測不能なマーケットに投資するのだから、そもそも予測せず、中長期的に資産の成長の力に投資することが重要です。

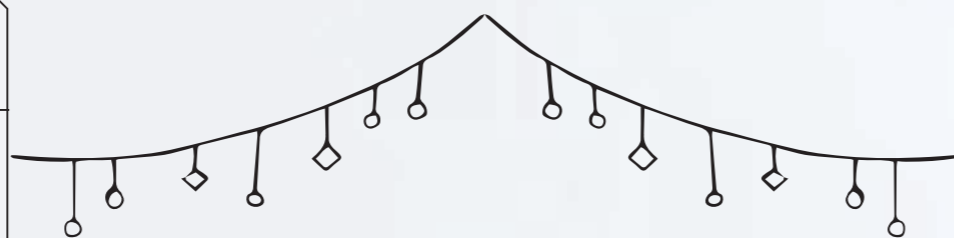
10周年の「ファイン・ブレンド」にメッセージ!

山崎 まだまだ先は長い、これからもよろしく!

笹沼 私個人の「日興アセット」在籍とほぼ一緒! これからも共に!

佐々木 10周年、おめでとうございます。これからもブレない運用で確固たるあゆみをもって「ファイン」な歴史を重ねていってほしいです。投資家の皆さんの安心・信頼を担う資産形成の重要なポジションを確立していきましょう。

山崎・笹沼 おお〜。





資料で見る「ファイン・ブレンド」

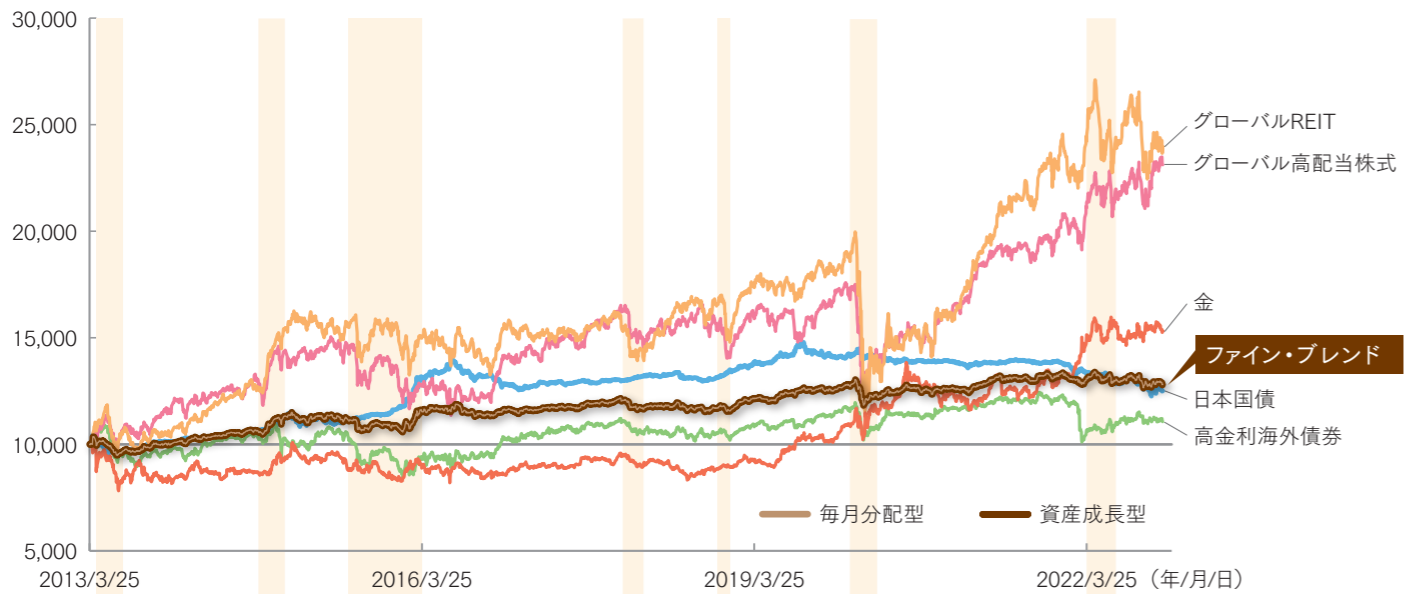
記事中で語られた「ファイン・ブレンド」の安定性や「仕組み」の妙。ここからは図表を用いて当ファンドを紐解きます。



環境に応じた配分調整により、安定成長を続けてきた「ファイン・ブレンド」

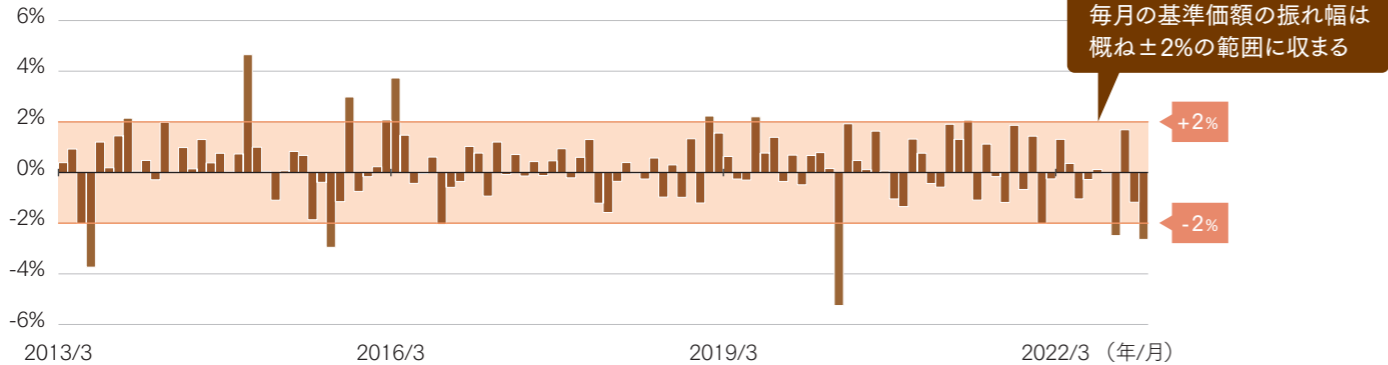
ファイン・ブレンドの基準価額と各資産の推移

期間：2013年3月25日(設定日)～2022年12月30日(日次)



ファイン・ブレンド(資産成長型)の月間騰落率

期間：2013年3月25日(設定日)～2022年12月30日(月次)



※「ファイン・ブレンド」は、税引前分配金再投資ベースの基準価額です。
 ※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
 ※税引前分配金再投資ベースとは、分配金(税引前)を再投資したものととして算出した理論上のものである点にご留意ください。
 ※各資産のデータは当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドならびに外国投資信託の値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

異なる強みを持つ5つの資産が投資対象

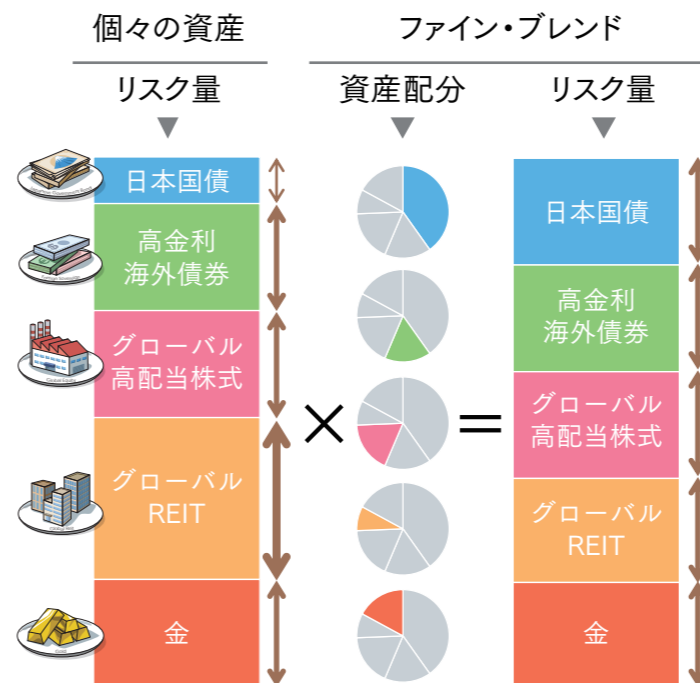
当ファンドでは、中長期的に収益が期待できる5つの資産を主要投資対象とします。これにより、資産分散と収益獲得をめざします。

日本国債 日本国債の中で、超長期国債(残存期間が10年以上の国債)を中心に投資します。 期待される効果: 安定性 為替変動の影響: なし	高金利海外債券 G20構成国の中から、金利水準が高いソブリン債に投資します。 期待される効果: 収益性 為替変動の影響: あり	グローバル高配当株式 世界各国の配当利回りが高い株式(高配当株式)に投資を行います。 期待される効果: 収益性 為替変動の影響: あり
グローバルREIT 世界の市場不動産投資(REIT)を中心に投資を行います。 期待される効果: 収益性 為替変動の影響: あり	金 金価格への連動をめざす金ETF(金市場投資)などを通じ、金への実質的な投資を行います。 期待される効果: 分散 為替変動の影響: あり	

価格変動に着目した資産配分 = リスク・パリティ

資産配分の決定においては、投資する資産ごとの価格変動(リスク)に着目することで、基準価額の大きな変動を抑えながら、安定的な収益の獲得をめざします。

各資産とファイン・ブレンドのリスク量のイメージ

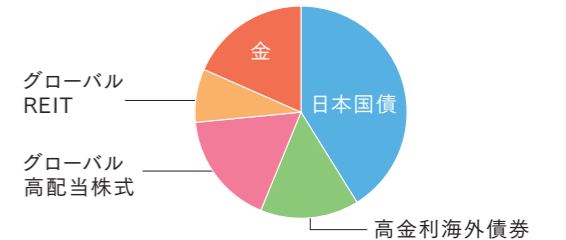


特性が違うので、リスク量に応じて資産配分を決定。基準価額への各資産のリスク量が不均一、影響が概ね均等

局面に応じて「リスクをマネジメント」

状況変化に対応して資産配分を調整
配分変更は原則として毎月実施しますが、市場急変時には、臨時変更を行なう場合もあります。

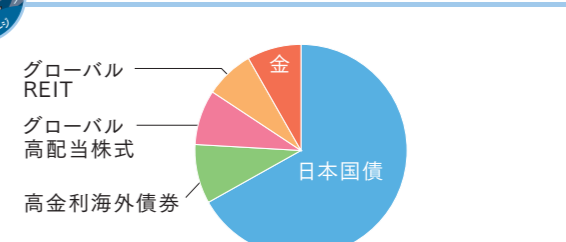
Scene1 市場変動が落ち着いた局面



4資産の価格変動が落ち着いた状況では、4資産の配分が高まる

期待される効果 基準価額の値上がり期待

Scene2 市場変動が高まった局面



4資産の価格変動の高まりによって、日本国債の配分が高まる

期待される効果 基準価額の値下がり影響の低減

※上記はイメージです



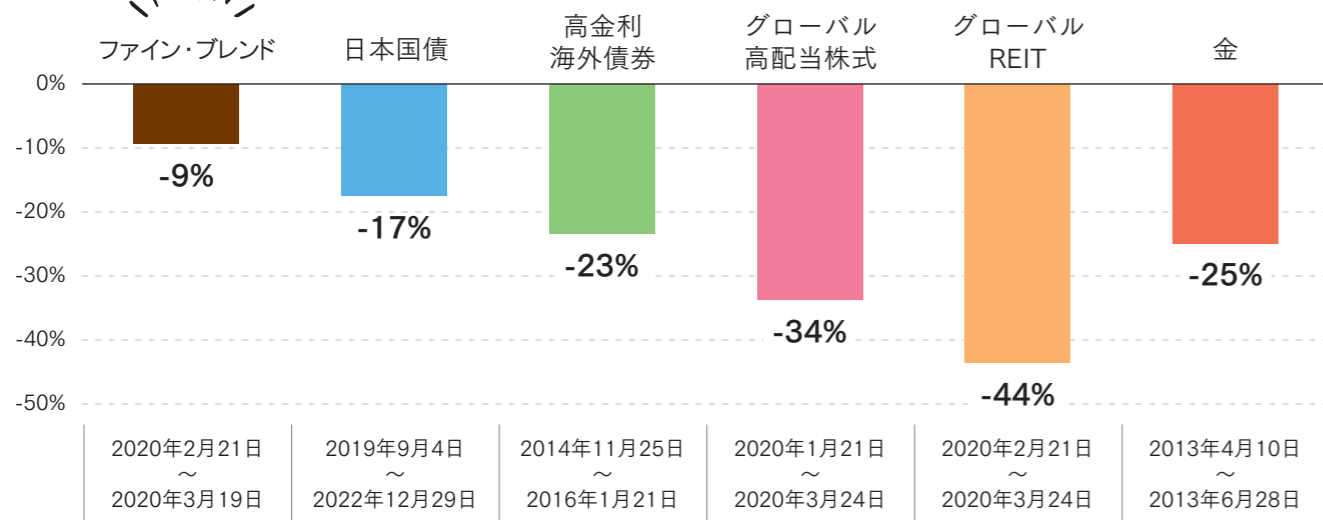
短期間で大きく負けない工夫

資産が値下がりすると、その回復には下落時よりも大きな上昇の力が必要となり、取り戻すことが大変です。当ファンドでは、大きく負けないように基準価額の値動きを抑えて安定成長をめざすことが、資産形成の大切なポイントと考えます。



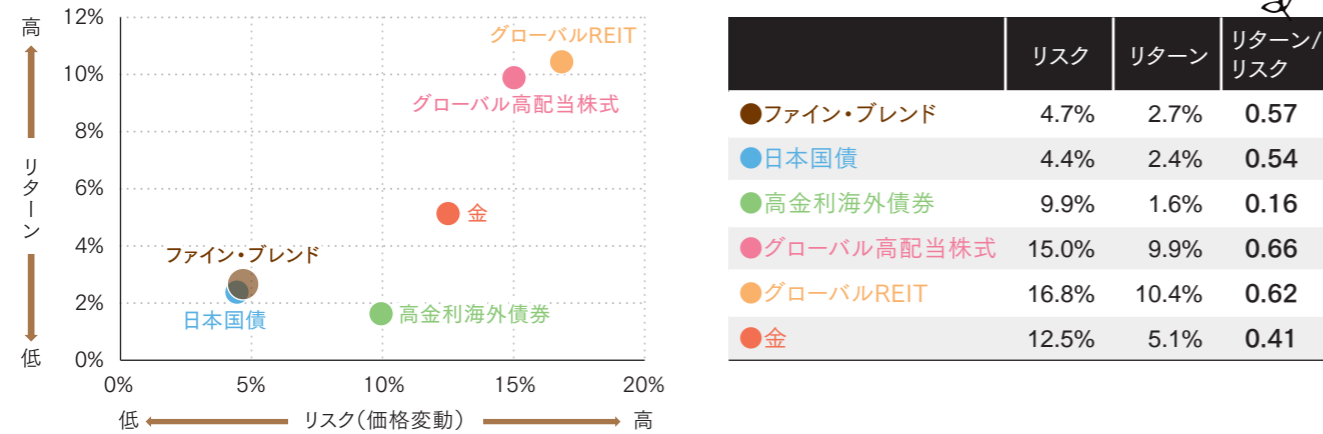
ファイン・ブレンドと各資産の最大下落率

期間：2013年3月25日(設定日)～2022年12月30日



ファイン・ブレンドと各資産のリスク・リターン

期間：2013年3月25日(設定日)～2022年12月30日、年率



※上記は、ファイン・ブレンド(資産成長型)の税引前分配金再投資ベースの基準価額です。 ※基準価額は信託報酬控除後の値です。 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。 ※各資産のデータは、当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドならびに外国投資信託の値を使用しています。 ※リターンは月次騰落率の平均、リスクは月次騰落率の標準偏差で算出しています。なお、2013年3月は、設定日からの騰落率です。 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドの特色

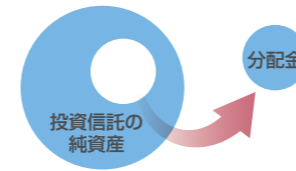
- 1 主として、収益が期待できる5つの資産を投資対象とし、基準価額の変動を抑えながらも、収益の獲得をめざします。
- 2 基準価額の変動抑制効果を高めながら魅力的な収益を追求することをめざして、5資産の配分比率を決定します。また、この比率は定期的に見直します。
- 3 毎月決算を行なう「毎月分配型」と年1回決算を行なう「資産成長型」があります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

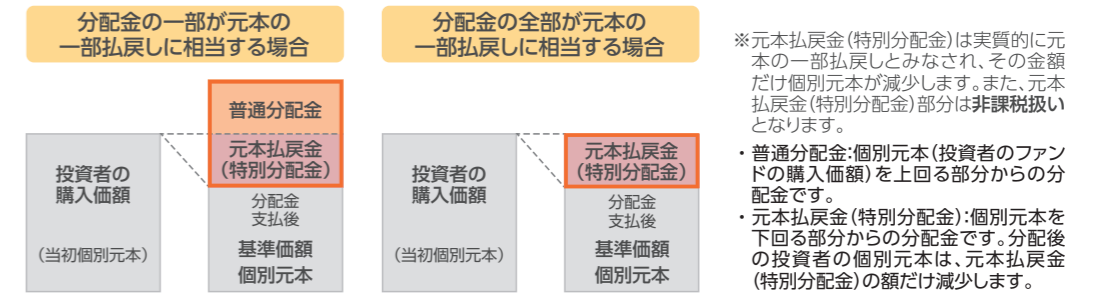
収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



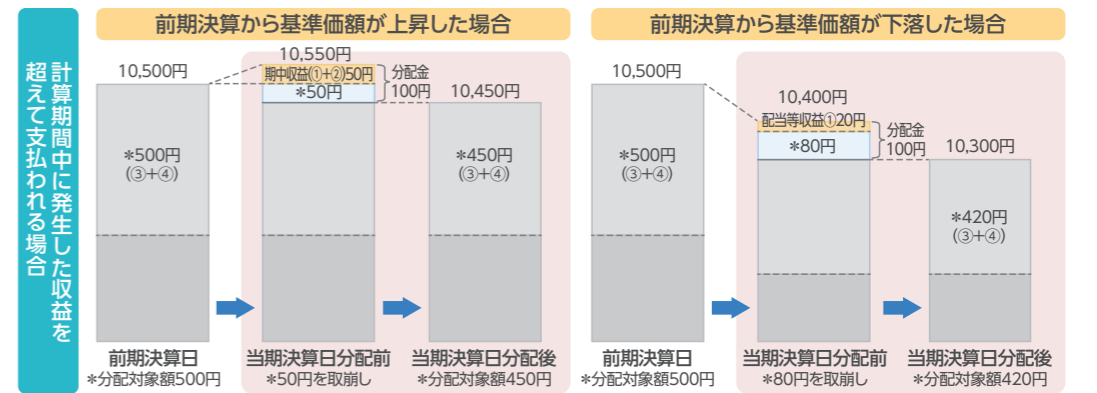
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。
 ・普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 ・元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。 ※右記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。



お申込みに際しての留意事項

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券、株式、不動産投信および金上場投信を実質的な投資対象としますので、債券、株式、不動産投信および金上場投信の価格の下落や、債券、株式、不動産投信および金上場投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産および金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- 新興国の債券は、先進国の債券に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 不動産投信は、不動産や不動産証券化商品に投資して得られる収入や売却益などを収益源としており、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。また、不動産の老朽化や立地条件の変化、火災、自然災害などに伴う不動産の滅失・毀損などにより、その価格が影響を受ける可能性もあります。不動産投信の財務状況、業績や市況環境が悪化する場合、不動産投信の分配金や価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。
- 金上場投信は、連動目標とする金地金価格の変動の影響を受けます。金市場は、金の需給関係、為替・金利の変動、政府の規制・介入、投機家の参入など様々な要因により変動します。金地金の価格が下落する場合、金上場投信の価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の債券は、先進国の債券に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- 新興国の債券は、先進国の債券に比べて利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じるリスクが高まる場合があります。

(前ページより続きます)【信用リスク】(続き)

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。

【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。
 ※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当資料は、投資者の皆様には「**ファイブ・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)**」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年3月8日まで(2013年3月25日設定)
決算日	【毎月分配型】毎月8日(休業日の場合は翌営業日) 【資産成長型】毎年3月8日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ロンドンの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。
 <申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 ※販売会社によっては、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります(スイッチング手数料は販売会社によって異なります)。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対し年率1.47175%(税抜1.3525%)以内が実質的な信託報酬となります。信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.1%(税抜1%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.37175%(税抜0.3525%)以内となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、委託会社が算出した上限値です。当該上限値は、投資対象とする投資信託証券の想定される組入比率に基づき委託会社が算出したものですが、当該投資信託証券の変更などにより見直すことがあります。
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社	日興グローバルラップ株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 (ホームページ) www.nikkoam.com/ 【コールセンター】0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

毎月分配型	資産成長型	金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
●	●	株式会社あおぞら銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第8号	○		○	
	●	株式会社青森銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○			
●	●	あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
●	●	株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
●	●	今村証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第3号	○			
●	●	auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
●	●	SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
●	●	株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
●	●	株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
	●	株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○			
●	●	岡三証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
●	●	おかやま信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第19号	○			
●		沖縄県労働金庫	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第8号				
●	●	株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○			
●	●	株式会社鹿児島銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社)	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○			
●	●	株式会社神奈川銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第55号	○			
	●	株式会社関西西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○		○	
	●	岐阜信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第35号	○			
●	●	九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			
●		九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第39号				
●	●	株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
●	●	京都信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第52号	○			
●	●	株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
●	●	株式会社きらぼし銀行 (委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
●	●	きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3198号	○			
	●	株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○			
●		近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第90号				
●	●	株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
●	●	株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
●		四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第26号				
●		静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第72号				
●	●	株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第6号	○			
●	●	湘南信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第192号	○			
●	●	株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
●	●	株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
●		中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第259号				
●	●	株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第17号	○			
●		中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第53号				
●		東海労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第70号				
●		東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第68号				
●	●	株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第57号	○			
●	●	株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第11号	○			
●	●	株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第7号	○			
●	●	内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			○
●	●	株式社長野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第63号	○			
●		長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第268号				
●		新潟県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第267号				
●	●	フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
●	●	PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
●	●	株式会社豊和銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第7号	○			
●	●	株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	
●		北陸労働金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第36号				
●		北海道労働金庫	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第38号				
●	●	松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
●	●	マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
●		株式会社みちのく銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第11号	○			
●	●	楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
	●	ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

(資料作成日現在、50音順)

FINE BLEND
Café Magazine



設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会